FOMA® L705iパソコン接続マニュアル

パソコン接続マニュアルについて

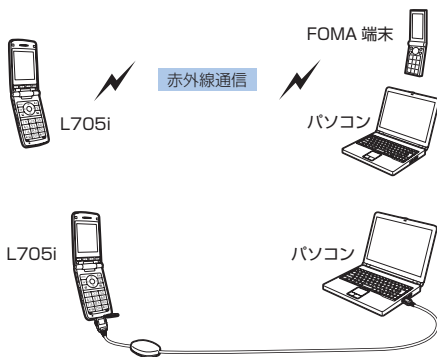
本マニュアルでは、FOMA L705iでデータ通信をする際に必要な事項についての説明をはじめ、CD-ROM内の「L705i通信設定ファイル（ドライバ）」「FOMA PC設定ソフト」のインストール方法などを説明しています。お使いの環境によっては操作手順や画面が一部異なる場合があります。

FOMA端末から利用できるデータ通信について

FOMA端末をパソコンと接続して、パケット通信とデータ転送（OBEX）によるデータ通信をご利用いただけます。

- 64Kデータ通信には対応していません。
- Remote Wakeupには対応していません。
- FAX通信はサポートしていません。
- ドコモのPDA「musea」や「sigmarion Ⅱ」「sigmarion Ⅲ」には対応していません。

データ転送（OBEX）

画像や音楽、電話帳、メールなどのデータを、他のFOMA端末やパソコンなどとの間で送受信します。

- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01（別売）
- ドコモケータイdatalink

パケット通信

送受信したデータ量に応じて通信料金がかかる通信方式です。ネットワークに接続したままの状態で必要なときにのみデータを送受信する使いかたに適しています。通信環境やネットワークの混雑状況の影響により通信速度が変化するベストエフォートによる提供です。
ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」や「mopera」などFOMAのパケット通信に対応したアクセスポイントを利用して、受信最大384kbps、送信最大64kbpsの通信速度でデータ通信ができます。
FOMA L705iは、海外でもW-CDMAまたはGPRSのパケット通信に対応したアクセスポイントを利用して、データ通信ができます。

- 多量のデータの送受信を行うと、通信料金が高額になりますのでご注意ください。

ご利用にあたっての留意点

インターネットサービスプロバイダの利用料について

インターネットを利用する場合は、ご利用になるインターネットサービスプロバイダ（以降プロバイダ）に対する利用料が必要になります。この利用料は、FOMAサービスの利用料とは別に直接プロバイダにお支払いいただきます。利用料の詳細については、ご利用のプロバイダにお問い合わせください。
ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」または「mopera」をご利用いただけます。「mopera U」をご利用いただく場合は、お申し込みが必要（有料）となります。「mopera」をご利用いただく場合は、お申し込み手続き不要、月額使用料無料です。

接続先（プロバイダなど）の設定について

パケット通信を行うときはパケット通信対応の接続先をご利用ください。

- DoPaのアクセスポイントには接続できません。
- PIAFSなどのPHS64K／32Kデータ通信のアクセスポイントには接続できません。

ネットワークアクセス時のユーザ認証について

接続先によっては、接続時にユーザ認証（IDとパスワード）が必要な場合があります。その場合は、通信ソフト（ダイヤルアップネットワーク）でIDとパスワードを入力して接続してください。IDとパスワードは接続先のプロバイダまたは接続先のネットワーク管理者から付与されます。詳細については、プロバイダまたは接続先のネットワーク管理者にお問い合わせください。

パケット通信の条件

FOMA端末とパソコンなどを接続して通信を行うには、次の条件※が必要になります。ただし、条件が整っていても基地局の混雑状況や電波状態によって通信できないことがあります。

- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01（別売）が利用できるパソコンであること
- FOMAサービスエリア内であること
- アクセスポイントが FOMA のパケット通信に対応していること

※： 日本国内の場合です。

お使いになる前に

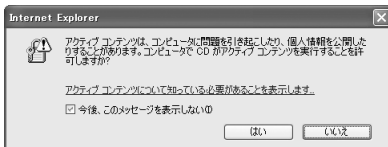
動作環境について

データ通信を利用するためのパソコンの動作環境は次のとおりです。

項　目	必要環境
パソコン本体	• PC-AT互換機でCD-ROMドライブが使用できる機器 • USBポート(Universal Serial Bus Specification Rev1.1/2.0準拠) • ディスプレイ解像度800×600ドット、High Color（65,536色）以上を推奨
OS※1	• Windows Vista、Windows XP、Windows 2000（各日本語版）
必要メモリ	• Windows Vista：512Mバイト以上 • Windows XP：128Mバイト以上※2 • Windows 2000：64Mバイト以上※2
ハードディスク容量	• 5Mバイト以上の空き容量※2

※1：OSアップグレードからの動作は保証いたしかねます。
※2：必要メモリ、ハードディスク容量は、パソコンのシステム構成によって異なる場合があります。

- メニューが動作する推奨環境はMicrosoft Internet Explorer6.0以降です。
  CD-ROMをセットしてもメニューが表示されない場合は次の手順で操作してください。
  ①「スタート」▶「マイコンピュータ」を順にクリックする
  ② CD-ROMのアイコンを右クリック▶「開く」を選択
  ③「index.html」をダブルクリックする
  ※：Windows Vistaの場合、推奨環境はMicrosoft Internet Explorer7.0以降です。

付属のCD-ROMをパソコンにセットすると、次のような警告画面が表示される場合があります。この警告は、Microsoft Internet Explorerのセキュリティの設定によって表示されますが、使用には問題ありません。
［はい］をクリックしてください。
- 画面はWindows XPを使用した場合の例です。お使いのパソコンの環境により異なる場合があります。

必要な機器について

データ通信を利用するには、FOMA端末とパソコン以外に次の機器、およびソフトウェアが必要です。

- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01（別売）またはFOMA USB接続ケーブル（別売）
- FOMA L705i用CD-ROM（付属品）

お知らせ

- USBケーブルは、専用のFOMA 充電機能付USB接続ケーブル01、またはFOMA USB接続ケーブルをお買い求めください。パソコン用のUSBケーブルはコネクタ部の形状が異なるため使用できません。
- 本書は、FOMA 充電機能付USB接続ケーブル01を使用した場合の説明となっています。
- USB HUBを使用すると、正常に動作しない場合があります。

データ通信の用語一覧

■ APN：
Access Point Nameの略です。パケット通信の接続先（プロバイダやLANなど）を識別するときに使用されます。例えば、ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」のAPNは「mopera.net」となります。

■ cid：
Context Identifierの略です。パケット通信の接続先（APN）をFOMA端末に登録するときに付ける登録番号です。本FOMA端末では1～11までのcidを使って11件のAPNを登録できます。

■ DNS：
Domain Name Systemの略です。URLなどに含まれる「nttdocomo.co.jp」などの表現を、コンピュータが読み込めるように数字のみのアドレスに変換するシステムです。

■ PDP type：
PDPは、Packet Data Protocolの略です。パケット通信の方式を表します。FOMA L705iは、通常はPPP接続方式とIP接続方式に対応しており、プロバイダなど接続先が指定する方式を選択できます。
接続先が指定するPDP typeにつきましては、プロバイダまたは接続先のネットワーク管理者にお問い合わせください。

■ QoS：
Quality of Serviceの略です。ネットワークのサービス品質を示します。FOMA端末ではデータの通信速度の条件を指定できます。※
※：接続時の速度は通信状況などによって可変します。

■ 通信設定最適化：
FOMAネットワークでパケット通信を行うときに、TCP/IPの伝送能力を最大限に生かすためのTCPパラメータです。
FOMA端末の通信性能を最大限に活用するには、TCPパラメータの最適化が必要となります。

次のページへ続く

■ パソコンの管理者権限：

Windowsのシステムのすべてにアクセスできる権限のことです。通常、管理者権限を持たないユーザー（アカウント）は、L705i通信設定ファイル（ドライバ）やFOMA PC設定ソフトなどのインストール／アンインストールができません。

データ転送（OBEX）の準備の流れ

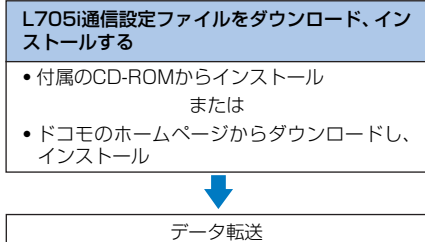
FOMA端末とパソコンを接続してドコモケータイdatalinkを利用する場合の準備の流れは次のとおりです。

L705i通信設定ファイルをダウンロード、インストールする

- 付属のCD-ROMからインストール

または

- ドコモのホームページからダウンロードし、インストール

データ転送

データ通信の準備の流れ

FOMA端末とパソコンを接続してパケット通信を利用する場合の準備の流れは次のとおりです。

FOMA端末とパソコンをFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01（別売）で接続する→P3

L705i通信設定ファイルをダウンロード、インストールする

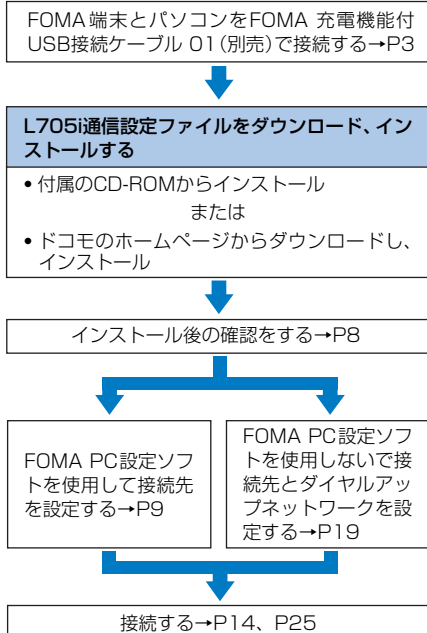
- 付属のCD-ROMからインストール

または

- ドコモのホームページからダウンロードし、インストール

インストール後の確認をする→P8

FOMA PC設定ソフトを使用して接続先を設定する→P9	FOMA PC設定ソフトを使用しないで接続先とダイヤルアップネットワークを設定する→P19

接続する→P14、P25

L705i通信設定ファイルとFOMA PC設定ソフトについて

L705i通信設定ファイル（ドライバ）

FOMA端末とパソコンをFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01で接続して、パケット通信やファイル転送をするために必要なソフトウェア（ドライバ）です。

FOMA PC設定ソフト

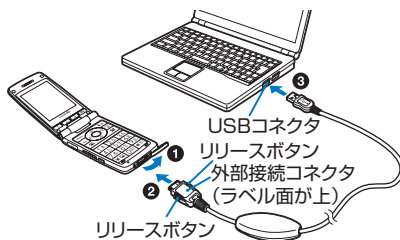
パケット通信の接続先（APN）やダイヤルアップなどの設定を簡単に行うためのソフトウェアです。

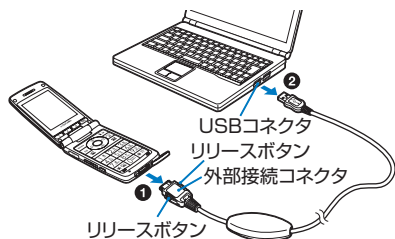
FOMA端末とパソコンを接続する

FOMA端末とパソコンをFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01（別売）で接続する方法について説明します。

FOMA端末とパソコンをFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01（別売）で接続する

1. FOMA端末の外部接続端子カバーを開け（❶）、FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01の外部接続コネクタをラベル面を上にしてまっすぐ「カチッ」と音がするまで差し込む（❷）
2. FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01のUSBコネクタをパソコンのUSB端子に接続する（❸）

次のページへ続く

取り外しかた

① FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01（別売）の外部接続コネクタのリリースボタンを押しながら、まっすぐ引き抜く（❶）

② パソコンのUSB端子からFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01を引き抜く（❷）

お知らせ

- 通信の切断、誤動作、データ消失の原因となるため、データ通信中にFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01を取り外さないでください。
- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01のコネクタは無理に接続しないでください。故障の原因となります。各コネクタの向きや角度が正しくないと、接続できません。各コネクタの向きや角度が正しいときは、強い力を入れなくてもスムーズに接続できるようになっています。うまく接続できないときは、無理に行わずに、もう一度コネクタの向きや角度、形状などを確認してください。
- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01は無理に取り外さないでください。無理に引っ張ろうとすると故障の原因となります。

インストール／アンインストール時の注意点

L705i通信設定ファイル（ドライバ）やFOMA PC設定ソフトのインストール／アンインストール時は、次の点にご注意ください。

- インストール／アンインストールを行う場合は、必ずパソコンの管理者権限を持ったアカウントで行ってください。それ以外のアカウントでインストール／アンインストールを行うとエラーになります。パソコンの管理者権限に関する設定や操作については、各パソコンメーカまたはマイクロソフト社にお問い合わせください。
- インストール／アンインストールを行う前に、他のソフトウェアが稼動していないことを確認してください。稼動している場合は、ソフトウェアを終了させてから行ってください。

■ Windows Vistaの場合

「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、「許可」または「続行」をクリックするか、パスワードを入力して［OK］をクリックしてください。パソコンの管理者権限に関する設定や操作については、各パソコンメーカまたはマイクロソフト社にお問い合わせください。

L705i通信設定ファイル（ドライバ）をインストールする

FOMA端末とパソコンをはじめてFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01（別売）で接続する場合は、L705i通信設定ファイルをインストールしておく必要があります。

- L705i通信設定ファイルのインストールは、必ずFOMA端末とパソコンが接続されていない状態で開始してください。
- 操作の前に、必ず「インストール／アンインストール時の注意点」（P4）を参照してください。

Windows Vistaにインストールする場合

1 FOMA L705i用CD-ROMをパソコンにセットする

「FOMA L705i CD-ROM」画面が表示されます。

- パソコンの設定によっては、表示されない場合があります。その場合は、操作3に進みます。

2 画面右上の［×］をクリックする

「FOMA L705i CD-ROM」画面が消えます。

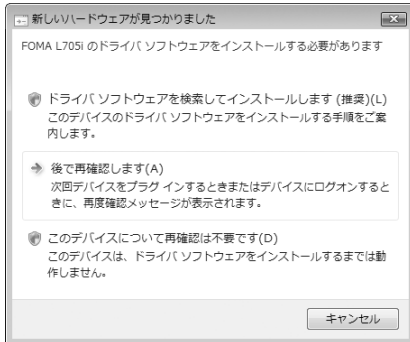
次のページへ続く

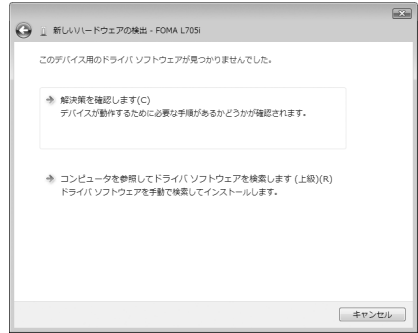
3 パソコンとFOMA端末を接続する

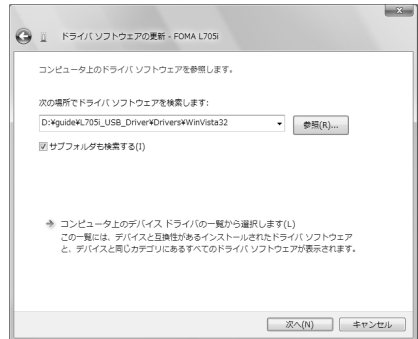
パソコンの画面のタスクバーから「新しいハードウェアが見つかりました」というポップアップメッセージが数秒間表示されます。

- 接続方法→P3
- FOMA 端末の電源が入っている状態で接続してください。

4 「ドライバソフトウェアを検索してインストールします(推奨)」をクリックする

- クリック後、パソコンの画面のタスクバーから「デバイス　ドライバソフトウェアをインストールしています」というポップアップメッセージが数秒間表示されます。
- L705i通信設定ファイルを同じパソコンに2回以上インストールした場合は、次の画面が表示されず、パソコンの画面のタスクバーから「デバイスドライバソフトウェアが正しくインストールされました」というポップアップメッセージが数秒間表示され、自動的にインストールが完了することがあります。その場合は、続いてL705i通信設定ファイルが正しくインストールされていることを確認してください。→P8

5 「ディスクはありません。他の方法を試します」をクリックする

6 「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します(上級)」をクリックする

7 L705i通信設定ファイル(ドライバ)の検索先を入力 ▶[次へ]をクリックする

検索先として、「次の場所でドライバソフトウェアを検索します」欄に「<CD-ROMドライブ名>：¥guide¥L705i_USB_Driver¥Drivers¥WinVista32」と入力します。

8 インストールの終了画面で[閉じる]をクリックする

この後、操作6～8を2回行い、L705i通信設定ファイルをすべてインストールします。

すべてのL705i通信設定ファイルのインストールが完了すると、パソコンの画面のタスクバーから「デバイス　ドライバソフトウェアが正しくインストールされました」というポップアップメッセージが数秒間表示されます。
続いて、L705i通信設定ファイルが正しくインストールされていることを確認してください。→P8

Windows XPにインストールする場合

1 FOMA L705i用CD-ROMをパソコンにセットする

「FOMA L705i CD-ROM」画面が表示されます。

- パソコンの設定によっては、表示されない場合があります。その場合は、操作3に進みます。

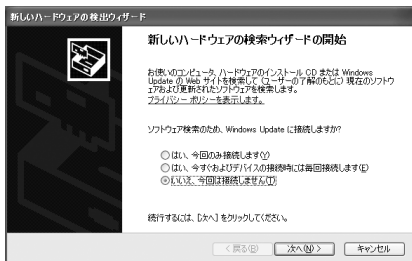
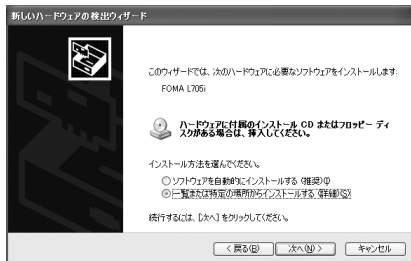
2 画面右上の☒をクリックする

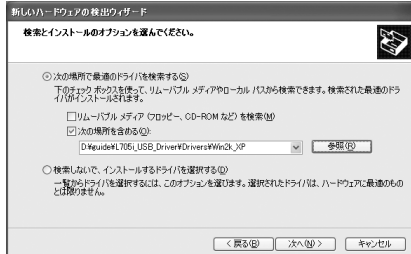
「FOMA L705i CD-ROM」画面が消えます。

3 パソコンとFOMA端末を接続する

パソコンの画面のタスクバーから「新しいハードウェアが見つかりました」というポップアップメッセージが数秒間表示されます。

- 接続方法→P3
- FOMA 端末の電源が入っている状態で接続してください。

4 「いいえ、今回は接続しません」を選択▶[次へ]をクリックする

5 「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」を選択▶[次へ]をクリックする

6 「次の場所で最適のドライバを検索する」を選択▶「リムーバブル メディア(フロッピー、CD-ROMなど)を検索」のチェックを外す▶「次の場所を含める」にチェックを入れる▶L705i通信設定ファイル(ドライバ)の検索先を入力▶[次へ]をクリックする

検索先として、「次の場所を含める」欄に「＜CD-ROMドライブ名＞：￥guide￥L705i_USB_Driver￥Drivers￥Win2k_XP」と入力します。

■ 最適なソフトウェアの選択画面が表示された場合

パソコンの状況によっては、次のような画面が表示される場合があります。
その場合は「＜CD-ROMドライブ名＞：￥guide￥l705i_usb_driver￥drivers￥win2k_xp」を選択▶［次へ］をクリックして、インストールを続けてください。

次のページへ続く

7 新しいハードウェアの検索ウィザードの完了画面で[完了]をクリックする

この後、操作4～7を2回行い、L705i通信設定ファイルをすべてインストールします。

すべてのL705i通信設定ファイルのインストールが完了すると、パソコンの画面のタスクバーから「新しいハードウェアがインストールされ、使用準備ができました」というポップアップメッセージが数秒間表示されます。
続いて、L705i通信設定ファイルが正しくインストールされていることを確認してください。→P8

Windows 2000にインストールする場合

1 FOMA L705i用CD-ROMをパソコンにセットする

「FOMA L705i CD-ROM」画面が表示されます。

- パソコンの設定によっては、表示されない場合があります。その場合は、操作3に進みます。

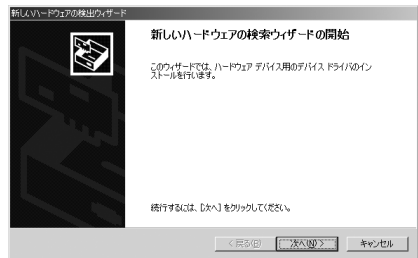
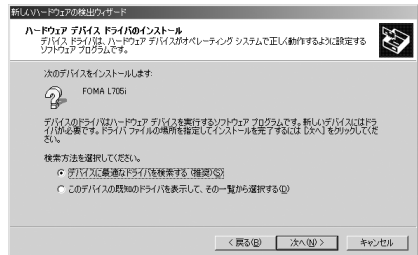
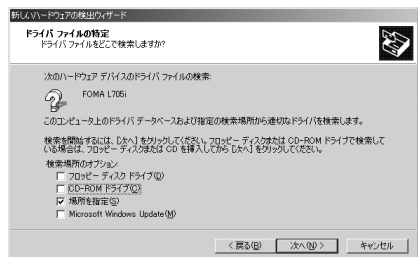
2 画面右上の☒をクリックする

「FOMA L705i CD-ROM」画面が消えます。

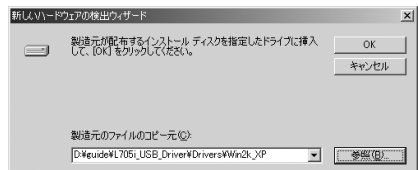
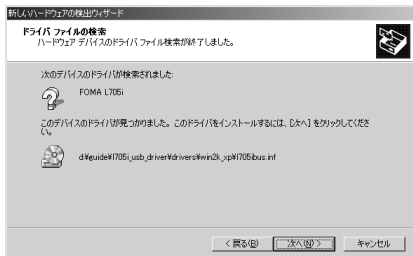
3 パソコンとFOMA端末を接続する

「新しいハードウェアが見つかりました」画面が数秒間表示されます。

- 接続方法→P3
- FOMA 端末の電源が入っている状態で接続してください。

4 [次へ]をクリックする

5 「デバイスに最適なドライバを選択する(推奨)」を選択▶[次へ]をクリックする

6 「場所を指定」を選択▶[次へ]をクリックする

7 L705i通信設定ファイル(ドライバ)の検索先を入力▶[OK]をクリックする

検索先として、「製造元のファイルのコピー元」欄に「<CD-ROMドライブ名>：￥guide￥L705i_USB_Driver￥Drivers￥Win2k_XP」と入力します。

次のページへ続く

8 ドライバ名を確認▶[次へ]をクリックする

9 新しいハードウェアの検索ウィザードの完了画面で[完了]をクリックする

この後、操作4～9を2回行い、L705i通信設定ファイルをすべてインストールします。

接続後、L705i通信設定ファイルが自動的にインストールされます。
すべてのL705i通信設定ファイルのインストールが完了すると、パソコンの画面のタスクバーから「新しいハードウェアがインストールされ、使用準備ができました」というポップアップメッセージが数秒間表示されます。
続いて、L705i通信設定ファイルが正しくインストールされていることを確認してください。→P8

インストールしたL705i通信設定ファイル(ドライバ)を確認する

L705i通信設定ファイルが正しくインストールされていることを確認します。

例：Windows XPの場合

1 「スタート」▶「コントロールパネル」▶「パフォーマンスとメンテナンス」▶「システム」を順にクリックする

■ **Windows Vistaの場合**
「 (スタート)」▶「コントロールパネル」▶「システムとメンテナンス」を順にクリックします。

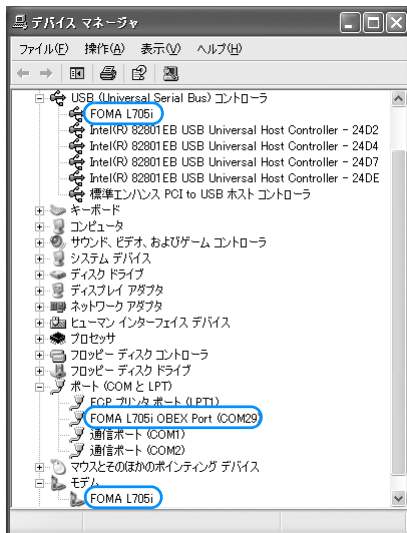
■ **Windows 2000の場合**
「スタート」▶「設定」▶「コントロールパネル」▶「システム」を順にクリックします。

2 「ハードウェア」タブをクリック▶[デバイスマネージャ]をクリックする

■ **Windows Vistaの場合**
「デバイスマネージャ」▶[続行]を順にクリックします。

■ **Windows 2000の場合**
「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

3 各デバイス表示をクリックして、インストールされたドライバ名を確認する

「USB（Universal Serial Bus）コントローラ」「ポート（COMとLPT）」「モデム」の各デバイスにすべてのドライバが表示されていることを確認します。

Windows XPの場合

デバイス表示	ドライバ名
USB（Universal Serial Bus）コントローラ	FOMA L705i
ポート（COMとLPT）	FOMA L705i OBEX Port
モデム	FOMA L705i

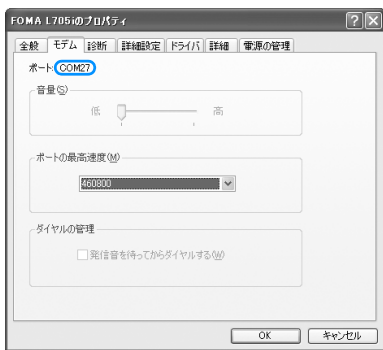
FOMA端末の通信ポート番号を確認するには

FOMA PC設定ソフトを使わずに通信の設定を行うときなどに、FOMA端末のモデム名や通信ポート（COMポート）の番号が必要になる場合があります。デバイスマネージャ画面から確認する方法を説明します。

① **FOMA端末とパソコンを接続する**
- 接続方法→P3

② **「L705i通信設定ファイル（ドライバ）を確認する」の操作1～2を行う**

③ **「モデム」をクリック▶「FOMA L705i」を選択▶メニューバーから［操作］▶［プロパティ］を順にクリック▶「モデム」タブをクリックする**
「ポート:」の右側にFOMA端末のCOMポート番号が表示されます。

次のページへ続く

L705i通信設定ファイル（ドライバ）をアンインストールする

L705i通信設定ファイルのアンインストールが必要な場合は、次の手順で行います。

- L705i通信設定ファイルのアンインストールは、必ずFOMA端末とパソコンが接続されていない状態で開始してください。
- 操作の前に、必ず「インストール／アンインストール時の注意点」（P4）を参照してください。

例：Windows XPの場合

1 「スタート」▶「コントロールパネル」▶「プログラムの追加と削除」を順にクリックする

「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。

■ Windows Vistaの場合
「（スタート）」▶「コントロールパネル」▶「プログラムのアンインストール」を順にクリックします。

■ Windows 2000の場合
「スタート」▶「設定」▶「コントロールパネル」を順にクリック▶「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。

2 「FOMA L705i USB」を選択▶「変更と削除」をクリックする

■ Windows Vistaの場合
「アンインストール」をクリックします。

3 ［OK］をクリックする

4 アンインストールの確認画面で［OK］をクリックする

アンインストールが終了します。

お知らせ

- L705i 通信設定ファイルをインストールするときに、FOMA PC接続ケーブル（別売）が外れたり、パソコンで［キャンセル］を押してインストールを中止したりすると、正常にインストールされない場合があります。このような場合は、アンインストールの操作を行ってL705i通信設定ファイルを一度削除してから、再度インストールしてください。

FOMA PC設定ソフトについて

FOMA端末をパソコンに接続してパケット通信を行うには、通信に関するさまざまな設定が必要です。FOMA PC設定ソフトを使用すると、次の設定を簡単に行うことができます。

■ かんたん設定
ガイドに従い操作することで「FOMAデータ通信用ダイヤルアップの作成」や「通信設定の最適化」などを簡単に行います。

■ 通信設定の最適化
「FOMAパケット通信」を利用する前に、パソコン内の通信設定を最適化します。
通信性能を最大限に活用するには、通信設定の最適化が必要になります。

■ 接続先（APN）の設定
パケット通信に必要な接続先（APN）の設定を行います。
FOMAパケット通信の接続先には、電話番号は使用しません。
あらかじめ接続先ごとに、FOMA端末にAPN（Access Point Name）と呼ばれる接続先名を登録し、その登録番号（cid）を接続先番号欄に指定して接続します。
お買い上げ時、cid1には「mopera」の接続先（APN）「mopera.ne.jp」、cid3には「mopera U」の接続先（APN）「mopera.net」が登録されています。

次のページへ続く

お知らせ

- FOMA PC設定ソフトを使わずに、パケット通信の設定を行う方法もあります。→P19
- FOMA PC設定ソフト（バージョン4.0.0）以前の古いバージョン（以後旧FOMA PC設定ソフトと呼びます）がインストールされている場合は、あらかじめ旧FOMA PC設定ソフトをアンインストールしてください。バージョンの確認方法→P11

FOMA PC設定ソフトを使用した通信設定の順序

ステップ1　FOMA PC設定ソフトをインストールする

FOMA PC設定ソフトをパソコンにインストールします。
- インストール方法→P10
- 旧FOMA PC設定ソフトがインストールされている場合は、FOMA PC設定ソフトをインストールする前にアンインストールしてください。旧FOMA PC設定ソフトがインストールされている場合は、FOMA PC設定ソフトはインストールできません。

ステップ2　設定前の準備をする

設定の前にFOMA端末がパソコンに接続されていること、L705i通信設定ファイルが正しくインストールされ、FOMA端末がパソコンに認識されていることを確認してください。
- FOMA端末とパソコンの接続方法→P3
- L705i通信設定ファイルの確認方法→P8
- FOMA端末がパソコンに正しく認識されていない場合は、L705i通信設定ファイルをインストールしてください。→P4

ステップ3　かんたん設定を使用して各種設定をする

FOMA PC設定ソフトのかんたん設定を使用して、通信の各種設定をします。
- mopera Uを利用したパケット通信の設定方法→P12
- その他のプロバイダを利用したパケット通信の設定方法→P13
- 通信設定の最適化→P16
- 接続先（APN）の設定→P17

ステップ4　インターネットに接続する

設定後、インターネットに接続します。
- 接続方法→P14

FOMA PC設定ソフトをインストールする

- 操作の前に、必ず「インストール／アンインストール時の注意点」（P4）を参照してください。

例：Windows XPの場合

1 付属のFOMA L705i用CD-ROMをパソコンにセットする

「FOMA L705i CD-ROM」画面が表示されます。

2 「データリンクソフト・各種設定ソフト」をクリックする

3 「FOMA PC設定ソフト」の[インストール]をクリックする

[インストール]をクリックすると、次のような警告画面が表示される場合があります。この警告は、Microsoft Internet Explorer のセキュリティの設定によって表示されますが、使用には問題ありません。

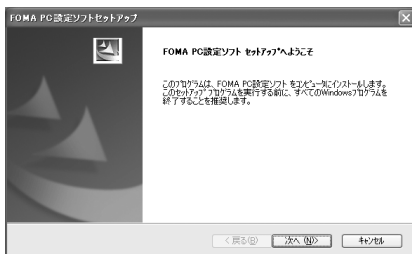
■「ファイルのダウンロードーセキュリティの警告」画面が表示された場合

[実行]をクリックします。

次のページへ続く

■「Internet Explorer－セキュリティの警告」画面が表示された場合
［実行する］をクリックします。

4 インストール画面で［次へ］をクリックする

旧W-TCP設定ソフトおよび旧FOMAデータ通信設定ソフトなどがインストールされているという画面が表示された場合は、P11を参照してください。

5 FOMA PC設定ソフトの使用許諾契約書の内容を確認し、契約内容に同意する場合は［はい］をクリックする

［いいえ］をクリックすると、インストールは中止されます。

6 セットアップタイプを選択▶［次へ］をクリックする

「タスクトレイに常駐する」にチェックを付けると、インストール後、（通信設定最適化→P16）がパソコンの画面右下（通常）のタスクトレイに常駐します。通信設定最適化を簡単に起動できるため、常駐させることをおすすめします。

- チェックを外してもFOMA PC設定ソフトはインストールできます。インストール後に常駐させる場合は、FOMA PC設定ソフトの起動画面で「メニュー」をクリックし、「通信設定最適化をタスクトレイに常駐させる」を選択してください（常駐に設定されている場合は選択できません）。

■ Windows Vistaの場合
操作7へ進みます。

7 インストール先を確認▶［次へ］をクリックする

変更がある場合は［参照］をクリックし、任意のインストール先を指定して［次へ］をクリックしてください。
ハードディスク容量が不足する場合などには、違うドライブにインストールすることもできますが、通常はそのまま次の操作へお進みください。

8 プログラムフォルダのフォルダ名を確認▶［次へ］をクリックする

変更がある場合は新規フォルダ名を入力し、［次へ］をクリックしてください。

9 ［完了］をクリックする

セットアップを完了すると、「FOMA PC設定ソフト」が起動します。このまま各種設定を開始できます。

FOMA PC設定ソフトのインストール時に表示される警告画面や確認画面について

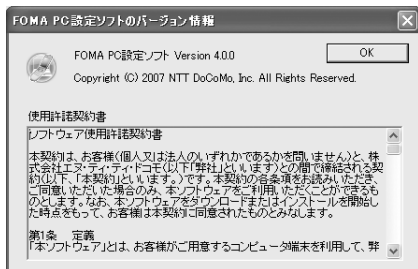
旧W-TCP設定ソフトがインストールされている場合
警告画面が表示されます。
Windows Vistaの場合は「プログラムのアンインストール」、Windows XPの場合は「プログラムの追加と削除」、Windows 2000の場合は「アプリケーションの追加と削除」から旧バージョンの「W-TCP設定ソフト」を削除してください。

旧FOMAデータ通信設定ソフトがインストールされている場合
警告画面が表示されます。
Windows Vistaの場合は「プログラムのアンインストール」、Windows XPの場合は「プログラムの追加と削除」、Windows 2000の場合は「アプリケーションの追加と削除」から旧バージョンの「FOMAデータ通信設定ソフト」を削除してください。

旧FOMA PC設定ソフトがインストールされている場合
警告画面が表示されます。
Windows Vistaの場合は「プログラムのアンインストール」、Windows XPの場合は「プログラムの追加と削除」、Windows 2000の場合は「アプリケーションの追加と削除」から旧バージョンの「FOMA PC設定ソフト」を削除してください。

インストールの途中で［キャンセル］や［いいえ］をクリックした場合
セットアップの中止画面が表示されます。
インストールを継続する場合は［いいえ］をクリックしてください。中止する場合は［はい］をクリックして、確認画面で［完了］をクリックしてください。

FOMA PC設定ソフトのバージョン情報を確認するには

FOMA PC設定ソフトを起動後、「メニュー」▶「バージョン情報」を順にクリックすると、バージョン情報画面が表示されます。

通信の設定を行う

FOMA PC設定ソフトを使用したパケット通信の各種設定について説明します。

- 設定前にFOMA端末がパソコンに正しく接続されていることを確認してください。→P3
- 本FOMA端末は、64Kデータ通信に対応していません。

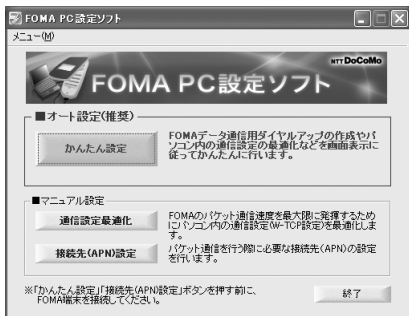
FOMA PC設定ソフトを起動する

パソコンからFOMA PC設定ソフトを起動します。

例：Windows Vista、XPの場合

1 「スタート」▶「すべてのプログラム」▶「FOMA PC設定ソフト」▶「FOMA PC設定ソフト」を順にクリックする

FOMA PC設定ソフトの起動画面が表示されます。

■ Windows 2000の場合
「スタート」▶「プログラム」▶「FOMA PC設定ソフト」▶「FOMA PC設定ソフト」を順にクリックします。

FOMA PC設定ソフトを使って、次の通信設定ができます。

- mopera Uを利用したパケット通信の設定→P12
- mopera U以外のプロバイダを利用したパケット通信の設定→P13

通信ポートを指定する

「通信設定」でパソコンの通信ポート（COMポート）の番号を指定できます。

- 通常、この設定を行う必要はありません。COMポートを任意に設定する必要がある場合に行ってください。

1 FOMA PC設定ソフトの起動画面から「メニュー」▶「通信設定」を順にクリックする

自動設定（推奨）：自動的に接続されている FOMA端末を指定します。通常はこちらを選択してください。

COMポート指定：任意のCOMポート番号を指定したい場合に、ご利用のFOMA端末が接続されているCOMポートの番号をCOM1～COM99までで指定します。

- COMポート番号の確認方法→P8

2 [OK]をクリックする

設定が完了します。

かんたん設定によるパケット通信の設定

通信速度受信最大384kbps、送信最大64kbpsのパケット通信の設定を行います。

「mopera U」または「mopera」を接続先として利用する場合

プロバイダとして、ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」または「mopera」を利用する場合の設定方法です。

例：Windows XPの場合

1 FOMA PC設定ソフトの起動画面で[かんたん設定]をクリックする

2 「パケット通信」を選択▶[次へ]をクリックする

3 「『mopera U』への接続」または「『mopera』への接続」を選択▶[次へ]をクリックする

「『mopera U』への接続」を選択した場合は、ご契約済みであることを確認する画面が表示されます。ご契約済みの場合は、［はい］をクリックします。

- 「mopera U」はPPP接続とIP接続、「mopera」はPPP接続のみに対応しています。
- **「mopera U」をご利用いただく場合は、お申し込みが必要となります（有料）。**
- **「mopera U」「mopera」以外のプロバイダをご利用になる場合は、P13を参照してください。**

次のページへ続く

4 [OK]をクリックする

パソコンに接続されたFOMA端末から接続先(APN)設定を取得します。しばらくお待ちください。

5 「接続名」欄に任意の接続名を入力▶「発信者番号通知」から「設定しない」または「186を付加する」を選択▶[次へ]をクリックする

- 「接続名」欄に次の半角文字は入力できません。
  ¥/:＊?!<>｜"
- **海外でご利用になる場合には、「設定しない」を選択してください。**

6 「使用可能ユーザーの選択」を任意に選択▶[次へ]をクリックする

「『mopera U』への接続」または「『mopera』への接続」を選択した場合は、「ユーザー名」「パスワード」の各欄が空欄でも接続できます。

■ Windows Vistaの場合

[次へ] をクリックして、操作8へ進みます。

7 「最適化を行う」にチェックを付ける▶[次へ]をクリックする

パケット通信に必要な通信設定を最適化します。

■ 既に最適化されている場合

最適化の確認画面は表示されません。

8 設定情報の内容を確認▶[完了]をクリックする

- 「デスクトップにダイヤルアップのショートカットを作成する」にチェックを付けると、デスクトップにダイヤルアップ接続のショートカットが作成されます。

9 [OK]をクリックする

設定が完了します。

■ 最適化の設定を変更した場合(Windows XP、2000の場合)

設定の変更を有効にするためにパソコンを再起動する必要があります。再起動の選択画面で「はい」をクリックしてください。

その他のプロバイダを接続先として利用する場合

例:Windows XPの場合

1 FOMA PC設定ソフトの起動画面で[かんたん設定]をクリックする

2 「パケット通信」を選択▶[次へ]をクリックする

3 「その他」を選択▶[次へ]をクリックする

4 [OK]をクリックする

パソコンに接続されたFOMA端末から接続先(APN)設定を取得します。しばらくお待ちください。

5 「接続名」欄に任意の接続名を入力する

- 「接続名」欄に次の半角文字は入力できません。
  ¥/:＊?!<>｜"
- **発信者番号通知の設定については、ご利用になるプロバイダの指示情報に従ってください。**
- **海外でご利用になる場合には、「設定しない」を選択してください。**

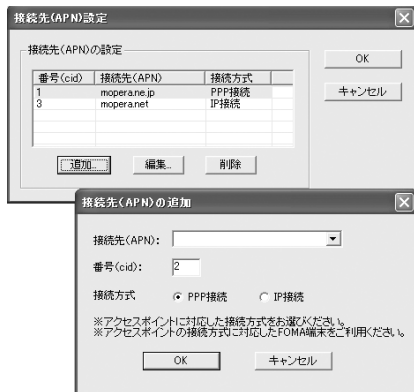
■ IPアドレスとDNSを設定する場合

ご利用のプロバイダより、接続先のIPアドレスとDNSの設定が指定されている場合は、[詳細情報の設定] をクリックして設定します。

次のページへ続く

6 [接続先(APN)設定]▶[追加]を順にクリックし、接続先(APN)を設定▶[OK]をクリックする

「接続先（APN）設定」画面に戻ります。

- 接続先（APN）には、ご利用のプロバイダのFOMAパケット通信に対応した接続先（APN）を正しく入力してください。
- 接続先には、半角文字で英数字、ハイフン（-）、ピリオド（.）のみ入力できます。
- 接続先（APN）は、cidの2、4～11に登録できます。お買い上げ時、cid1には「mopera」の接続先（APN）「mopera.ne.jp」、cid3には「mopera U」の接続先（APN）「mopera.net」が登録されています。

7 接続先(APN)を選択▶[OK]をクリックする

「接続先（APN）設定」画面が終了します。

8 [次へ]をクリックする

9 「ユーザー名」「パスワード」を入力▶「使用可能ユーザーの選択」を任意に選択▶[次へ]をクリックする

ユーザー名、パスワードには、ご利用のプロバイダから指定された情報を、大文字／小文字などに注意して正確に入力してください。

■ Windows Vistaの場合

「ユーザー名」「パスワード」を入力▶［次へ］をクリックして、操作11へ進みます。

10 「最適化を行う」にチェックを付ける▶[次へ]をクリックする

パケット通信に必要な通信設定を最適化します。

■ 既に最適化されている場合

最適化の確認画面は表示されません。

11 設定情報を確認▶[完了]をクリックする

設定された内容が一覧で表示されます。設定内容に誤りがないことを確認してください。
設定内容を変更する場合は［戻る］をクリックします。

- 「デスクトップにダイヤルアップのショートカットを作成する」にチェックを付けると、デスクトップにダイヤルアップ接続のショートカットが作成されます。

12 [OK]をクリックする

設定が完了します。

■ 最適化の設定を変更した場合（Windows XP、2000の場合）

設定の変更を有効にするためにパソコンを再起動する必要があります。再起動の選択画面で［はい］をクリックしてください。

設定した通信を実行する

FOMA PC設定ソフトを使用して設定した通信および切断の操作について説明します。

- 通信する前にFOMA端末がパソコンに正しく接続されていることを確認してください。→P3
- 通信するときは、設定に使用したFOMA端末を接続してください。異なるFOMA端末を接続した場合は、L705i通信設定ファイルの再インストールが必要になる場合があります。

1 パソコンのデスクトップの接続アイコンをダブルクリックする

デスクトップに接続アイコンが表示されていない場合は、次の操作を行います。

■ Windows Vistaの場合

「（スタート）」▶「接続先」を順にクリック▶設定した接続先を選択▶［接続］をクリックします。

■ Windows XPの場合

「スタート」▶「すべてのプログラム」▶「アクセサリ」▶「通信」▶「ネットワーク接続」を順にクリック▶設定した接続先のアイコンをダブルクリックします。

■ Windows 2000の場合

「スタート」▶「プログラム」▶「アクセサリ」▶「通信」▶「ネットワークとダイヤルアップ接続」を順にクリック▶設定した接続先のアイコンをダブルクリックします。

2 [ダイヤル]をクリックする

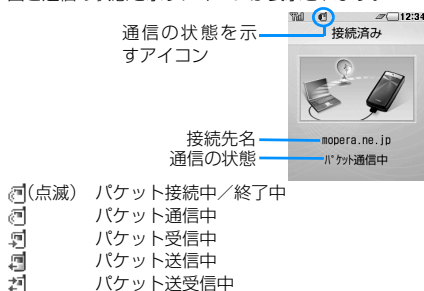
接続先に接続されます。

- 「『mopera U』への接続」または「『mopera』への接続」を選択した場合は「ユーザー名」「パスワード」の各欄は空欄のまま、［ダイヤル］をクリックしても接続できます。その他のプロバイダやダイヤルアップ接続を選択した場合は、「ユーザー名」「パスワード」の各欄に入力し、［ダイヤル］をクリックしてください。

次のページへ続く

- ユーザー名とパスワードの保存、またはパスワードの保存にチェックを付けると、次回からは入力を省略できます。
- OSの種類によっては、ダイヤルアップを接続すると接続の完了画面が表示されます。ただし、以前に接続完了のメッセージを表示しない設定にした場合は、完了画面は表示されません。

通信中の表示について

パケット通信中、本FOMA端末には、以下のような画面と通信の状態を示すアイコンが表示されます。

(点滅) パケット接続中／終了中
パケット通信中
パケット受信中
パケット送信中
パケット送受信中

通信を切断する

インターネットブラウザを終了しただけでは通信が切断されない場合があります。次の操作を行い、確実に切断してください。

1 パソコンのタスクトレイのダイヤルアップアイコンをクリックする

接続状態を示す画面が表示されます。

■ Windows Vistaの場合

「(スタート)」▶「接続先」を順にクリックして、接続しているダイヤルアップを選択します。

2 [切断]をクリックする

通信が切断されます。

お知らせ

- パソコンに表示される通信速度は、実際の通信速度とは異なる場合があります。

ネットワークに接続できない場合について

ネットワークに接続できない（ダイヤルアップ接続ができない）場合は、まず次の項目について確認してください。

FOMA L705iがパソコン上で認識できない

- お使いのパソコンが動作環境（P2）を満たしていることを確認してください。
- L705i 通信設定ファイルがインストールされていることを確認してください。
- FOMA端末がパソコンに接続され、電源が入っていることを確認してください。
- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01（別売）が、しっかりと接続されていることを確認してください。

相手先に接続できない

- ID（ユーザ名）やパスワードの設定が正しいかどうかを確認してください。
- 接続先の APN が正しいかどうかを確認してください。

FOMA PC設定ソフトをアンインストールする

- 操作の前に、必ず「インストール／アンインストール時の注意点」（P4）を参照してください。

アンインストールを実行する前に

FOMA PC設定ソフトをアンインストールする前に、FOMA用に変更されたパソコンの状態を元に戻す必要があります。

次のページへ続く

例：Windows XP、2000の場合

1 **「通信設定最適化」を終了させる**

パソコンのタスクトレイのを右クリックして、ポップアップメニューから「終了」をクリックします。

■ Windows Vistaの場合
操作2に進みます。

2 **起動中のFOMA PC設定ソフトを終了させる**

FOMA PC設定ソフトの起動画面右下の［終了］をクリックします。

- 「FOMA PC設定ソフト」や「通信設定最適化」の起動中にアンインストールしようとすると、アンインストールの中断画面が表示されます。その場合は、［OK］をクリックしてそれぞれのプログラムを終了した後、アンインストールを行います。

アンインストールする

例：Windows XPでアンインストールする場合

1 **「スタート」▶「コントロールパネル」▶「プログラムの追加と削除」を順にクリックする**

「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。

■ Windows Vistaの場合
「(スタート)」▶「コントロールパネル」▶「プログラムのアンインストール」を順にクリックします。

■ Windows 2000の場合
「スタート」▶「設定」▶「コントロールパネル」を順にクリック▶「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。

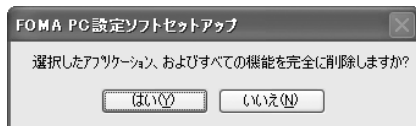
2 **「NTT DoCoMo FOMA PC設定ソフト」を選択▶［削除］をクリックする**

■ Windows Vistaの場合
「NTT DoCoMo FOMA PC設定ソフト」を選択▶「アンインストール」をクリックします。

■ Windows 2000の場合
「NTT DoCoMo FOMA PC設定ソフト」を選択▶［変更と削除］をクリックします。

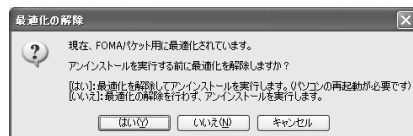
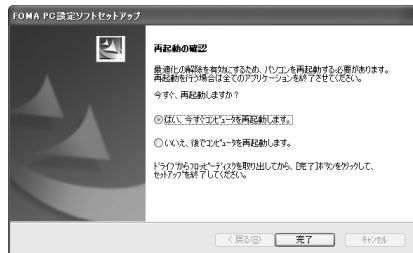
3 **削除するプログラム名を確認▶［はい］をクリックする**

アンインストールが開始されます。

FOMA PC設定ソフトセットアップ
選択したアプリケーション、およびすべての機能を完全に削除しますか?
はい(Y)　いいえ(N)

4 **［完了］をクリックする**

FOMA PC設定ソフトのアンインストールが終了します。

「通信設定最適化」の解除

Windows XP、2000で通信設定の最適化が行われている場合は、次の画面が表示されます。アンインストールする場合は［はい］をクリックしてください。

最適化を解除するには、パソコンの再起動が必要です。すぐに解除する場合は、続いて表示される次の確認画面で「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択▶［完了］をクリックします。

通信設定最適化

「通信設定最適化」はFOMAネットワークでパケット通信を行う際に、TCP/IPの伝送能力を最適化するための「TCPパラメータ設定」ツールです。Windows XPまたはWindows 2000でFOMA端末の通信性能を最大限に活用する前に、このソフトウェアによる通信設定の最適化が必要です。

最適化の設定と解除

Windows XPの場合

パソコン内の通信設定の最適化を設定／解除します。通信設定が最適化されている場合は、ダイヤルアップごとに最適化の設定／解除ができます。

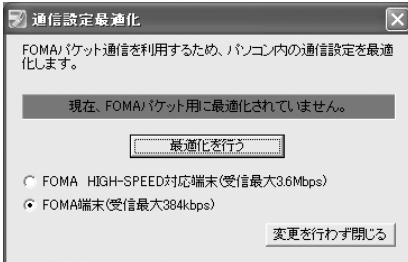
例：パソコン内の通信設定を最適化する場合

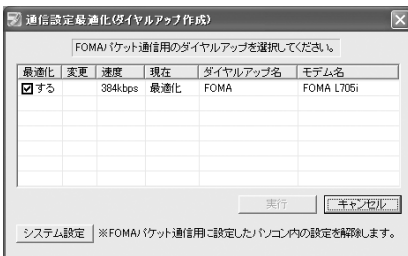
1 **FOMA PC設定ソフトの起動画面で［通信設定最適化］をクリックする**

■ タスクトレイから操作する場合
タスクトレイのをクリックします。

次のページへ続く

2 「FOMA端末（受信最大384kbps）」を選択▶［最適化を行う］をクリックする

- 最適化されている場合は、通信設定最適化画面が表示されません。

■ パソコン内の通信設定の最適化を解除する場合、およびダイヤルアップごとに最適化を設定／解除する場合
操作3に進みます。

3 最適化するダイヤルアップにチェックを入れ、［実行］をクリックする

■ パソコン内の通信設定の最適化を解除する場合
［システム設定］▶［最適化を解除する］の順にクリックします。

■ ダイヤルアップごとに通信設定の最適化を設定／解除する場合
最適化する場合は「最適化」欄にチェックを入れ、最適化を解除する場合はチェックを外すと、操作が完了します。

4 ［OK］をクリックする

5 再起動の確認画面で［はい］をクリックする

パソコンが再起動されます。
通信設定の最適化は、パソコンを再起動した後に有効になります。

Windows 2000の場合

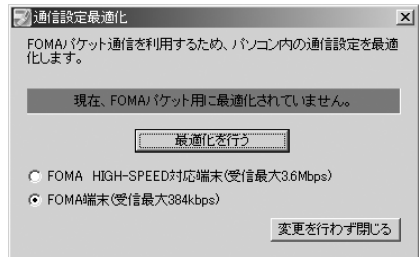
パソコン内の通信設定の最適化を設定／解除します。

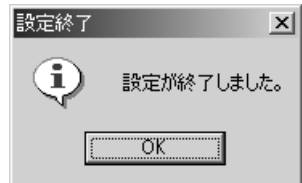
- ダイヤルアップごとの最適化の設定／解除はできません。

例：最適化する場合

1 FOMA PC設定ソフトの起動画面で［通信設定最適化］をクリックする

■ タスクトレイから操作する場合
タスクトレイの をクリックします。

2 「FOMA端末（受信最大384kbps）」を選択▶［最適化を行う］をクリックする

■ 最適化を解除する場合
「FOMA端末（受信最大384kbps）」を選択▶［最適化を解除する］をクリックします。

3 ［OK］をクリックする

4 再起動の確認画面で［はい］をクリックする

パソコンが再起動されます。
通信設定の最適化は、パソコンを再起動した後に有効になります。

接続先（APN）の設定

パケット通信の接続先（APN）を設定します。
接続先（APN）は11件まで設定でき、1～11の接続先（APN）を管理する登録番号（cid）が付けられます。cid はパケット通信の接続先を指定するときに使います。お買い上げ時、cid1には「mopera」の接続先（APN）「mopera.ne.jp」、cid3には「mopera U」の接続先（APN）「mopera.net」が登録されています。新しくcidを設定するときは、2または4～11に設定します。

次のページへ続く

- 設定する前にFOMA端末とパソコンが正しく接続されていることを確認してください。→P3

1 FOMA PC設定ソフトの起動画面で[接続先(APN)設定]をクリックする

2 FOMA端末設定取得画面で[OK]をクリックする

パソコンに接続されたFOMA端末から接続先(APN)情報を取得します。

3 接続先(APN)の設定をする

接続先(APN)の追加・編集・削除

■ 接続先(APN)を追加する場合

[追加]をクリックします。

■ 登録済みの接続先(APN)を編集する場合

編集する接続先(APN)を一覧から選択▶[編集]をクリックします。

■ 登録済みの接続先(APN)を削除する場合

削除する接続先(APN)を一覧から選択▶[削除]をクリックします。

- cid1またはcid3に登録されている接続先(APN)は、削除できません。
  例えばcid3を選択して[削除]をクリックした場合、接続先(APN)はお買い上げ時に登録されている「mopera.net」になります。

ファイルへの保存

FOMA端末に登録された接続先(APN)設定のバックアップや、編集中の接続先(APN)設定の保存ができます。

1 「ファイル」▶「名前を付けて保存」/「上書き保存」を順にクリックする

ファイルからの読み込み

パソコンに保存されている接続先(APN)設定の再編集やFOMA端末への書き込みができます。

1 「ファイル」▶「開く」を順にクリックする

FOMA端末への接続先(APN)情報の書き込み

表示されている接続先(APN)設定をFOMA端末に書き込むことができます。

1 [FOMA端末へ設定を書き込む]をクリックする

上書きの確認画面が表示されます。

2 [はい]をクリックする

FOMA端末からの接続先(APN)情報の読み込み

パソコンに接続されているFOMA端末の接続先(APN)を読み込むことができます。

1 「ファイル」▶「FOMA端末から設定を取得」を順にクリックする

FOMA端末設定取得画面が表示されます。

2 [OK]をクリックする

ダイヤルアップ作成機能

追加/編集された接続先(APN)をFOMA端末へ書き込むことができます。

1 追加/編集された接続先(APN)を選択▶[ダイヤルアップ作成]をクリックする

FOMA端末設定書き込み確認画面が表示されます。

2 [はい]をクリックする

FOMA端末へ接続先(APN)情報が書き込まれた後、[OK]をクリックすると「パケット通信用ダイヤルアップの作成」画面が表示されます。

3 任意の接続名を入力▶[ユーザID・パスワードの設定]をクリックする

- 「mopera U」または「mopera」の場合は空欄でも設定できます。

4 ユーザID、パスワードを入力▶「使用可能ユーザーの選択」を任意で設定▶[OK]をクリックする

ダイヤルアップが作成されます。

- ご利用のプロバイダよりIP情報、DNS情報が指示されている場合は、パケット通信用ダイヤルアップの作成画面で[詳細情報の設定]をクリックして、必要な情報を登録した後、[OK]をクリックします。

次のページへ続く

お知らせ

- 接続先（APN）は、パソコンに接続されるFOMA端末に登録される情報です。そのため、異なるFOMA端末をパソコンに接続した場合は、そのたびに接続先（APN）を登録する必要があります。

ダイヤルアップネットワークの設定

FOMA PC設定ソフトを使用せずに、パケット通信のダイヤルアップ接続を設定する方法について説明します。

接続先（APN）を設定する

パケット通信で使う接続先（APN）を設定します。接続先（APN）は最大11件設定でき、登録番号（cid）で管理します。
設定には、ATコマンドを入力するための通信ソフトが必要です。ここではWindows標準添付の「ハイパーターミナル」を使った設定方法を説明します。

- お買い上げ時、登録番号（cid）1にはmopera.ne.jp、3にはmopera.netが設定されていますので、接続先を設定するときは、cid2、または4～11に設定してください。
- Windows Vistaには「ハイパーターミナル」が添付されていません。Windows Vista で設定する場合は、Windows Vistaに対応する通信ソフトをご使用ください。設定方法については、ご使用になるソフトの取扱説明書などをご参照ください。
- 「mopera U」「mopera」以外の接続先（APN）については、ご利用のプロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。

例：Windows XPの場合

1 FOMA端末とパソコンを接続する

- 接続方法→P3

2 「スタート」▶「すべてのプログラム」▶「アクセサリ」▶「通信」▶「ハイパーターミナル」を順にクリックする

ハイパーターミナルが起動します。

■ Windows 2000の場合
「スタート」▶「プログラム」▶「アクセサリ」▶「通信」▶「ハイパーターミナル」を順にクリックします。

3 「名前」欄に任意の接続先名を入力▶[OK]をクリックする

4 「電話番号」欄に実在しない電話番号（「0」など）を入力▶「接続方法」に「FOMA L705i」と表示されていることを確認▶[OK]をクリックする

- 複数のモデム名が「接続方法」欄に表示されるときは、FOMA端末のモデム名を確認して、選択してください。→P8

5 接続画面で[キャンセル]をクリックする

ハイパーターミナルの入力画面が表示されます。

6 接続先（APN）を入力▶⏎を押す

AT+CGDCONT=<cid>,"<PDP type>","<APN>"⏎の形式で入力します。
<cid>、<PDP type>、<APN>の部分には、それぞれ次の情報を任意で入力してください。
入力後、「OK」と表示されれば、接続先（APN）の設定は完了です。

cid ：2、4～11の内の任意の番号を入力します。
※既にcidが設定されている番号を選択した場合は、設定が上書きされますのでご注意ください。

PDP type：
接続先が対応する接続方式をPPPまたはIPのどちらかから選択して、" "で囲んで入力します。

APN ：接続先（APN）を" "で囲んで入力します。

- 入力した文字が表示されない場合は、ATE1⏎を入力してください。

次のページへ続く

```
AT+CGDCONT=2,"PPP","XXX.com"
OK
```

cid2にPDP typeがPPP、APNがXXX.comの接続先を登録する場合

■ **指定したcidの接続先（APN）の設定をリセットする場合**
AT+CGDCONT=<cid>↵を入力します。

■ **設定されている接続先（APN）を確認する場合**
AT+CGDCONT?↵を入力します。

7 「ファイル」▶「ハイパーターミナルの終了」を順にクリックする

8 切断の確認画面で[はい]をクリック▶保存の確認画面で[いいえ]をクリックする

ハイパーターミナルが終了し、接続先（APN）の設定が完了します。

お知らせ

- 接続先（APN）は、FOMA端末に登録される情報のため、異なるFOMA端末を接続する場合は接続先（APN）を登録し直してください。
- パソコンに登録されている接続先（APN）を継続利用する場合は、FOMA端末の同じ登録番号（cid）に同じ接続先（APN）を登録してください。

発信者番号の通知／非通知を設定する

パケット通信時に接続先に発信者番号を通知するかどうかを設定できます。ここでは、ATコマンド（＊DGPIRコマンド→P28）を使って、接続する前に設定する方法を説明します。
発信者番号はお客様の大切な情報です。通知する際には、十分ご注意ください。

- Windows Vistaには「ハイパーターミナル」が添付されていません。Windows Vista で設定する場合は、Windows Vistaに対応する通信ソフトをご使用ください。設定方法については、ご使用になるソフトの取扱説明書などをご参照ください。

1 「接続先（APN）を設定する」（P19）の操作1～2を行う

ハイパーターミナルが起動します。

2 発信者番号の通知（186）／非通知（184）をATコマンドで設定する

AT＊DGPIR=<n> の形式で以下のように入力します。
入力後、「OK」と表示されれば、通知／非通知の設定は完了です。

- 入力した文字が表示されない場合は、ATE1↵を入力してください。

■ **発信者番号を非通知にする場合**
AT＊DGPIR=1↵
発信／着信応答時に自動的に184が付きます。

■ **発信者番号を通知する場合**
AT＊DGPIR=2↵
発信／着信応答時に自動的に186が付きます。

■ **＊DGPIRコマンドによる通知／非通知の設定を初期値（設定なし）に戻す場合**
AT＊DGPIR=0↵

お知らせ

- ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」または「mopera」をご利用になる場合は、発信者番号を「通知」に設定する必要があります。

接続先番号による発信者番号の通知／非通知の設定について

ダイヤルアップネットワークの設定時（P20）に接続先番号に186（通知）／184（非通知）を付けても、発信者番号の通知／非通知を設定できます。
接続先番号、および＊DGPIRコマンドの各設定による発信者番号の通知／非通知の状態は以下のようになります。

接続先番号の設定（cid=3の場合）	＊DGPIRコマンドによる設定		
	設定なし	非通知	通知
＊99＊＊＊3#	通知	非通知	通知
184＊99＊＊＊3#	非通知（接続先番号の設定（184）が優先されます）		
186＊99＊＊＊3#	通知（接続先番号の設定（186）が優先されます）		

ダイヤルアップネットワークの設定をする

パソコンから通信（ダイヤルアップネットワーク）の設定をします。

- 「mopera U」「mopera」以外に接続する場合の設定内容については、ご利用のプロバイダまたはネットワーク管理者へお問い合わせください。

例：<cid>=3に登録されているドコモのインターネット接続サービス「mopera U」へ接続する場合

Windows Vistaで設定する場合

1 「（スタート）」▶「接続先」を順にクリックする

次のページへ続く

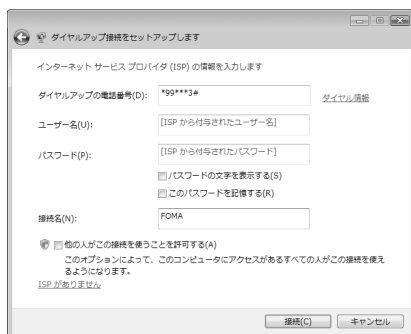
2 「接続またはネットワークをセットアップします」をクリックする

3 「ダイヤルアップ接続をセットアップします」を選択▶［次へ］をクリックする

4 モデムの選択画面が表示された場合は「FOMA L705i」をクリックする

モデムの選択画面は、複数のモデムが存在するときのみ表示されます。

5 各種設定を行い、［接続］をクリックする

- 「ダイヤルアップの電話番号」欄に接続先の番号を入力します。
- 「接続名」欄に任意の接続名を入力します。
- 「ユーザー名」「パスワード」の各欄にプロバイダまたはネットワーク管理者から指定された設定を入力します。
- 「mopera U」または「mopera」に接続する場合は、「ユーザー名」「パスワード」は空欄でも接続できます。

6 「（接続名）に接続中...」画面で［スキップ］をクリックする

接続テストは行わずに、設定のみ確認します。

- ［スキップ］をクリックしない場合、インターネットに接続されますのでご注意ください。

7 「接続をセットアップします」▶［閉じる］をクリックする

8 「（スタート）」▶「接続先」を順にクリックする

9 作成したダイヤルアップのアイコンを選択▶右クリックして「プロパティ」をクリックする

10 「全般」タブの画面で設定を確認する

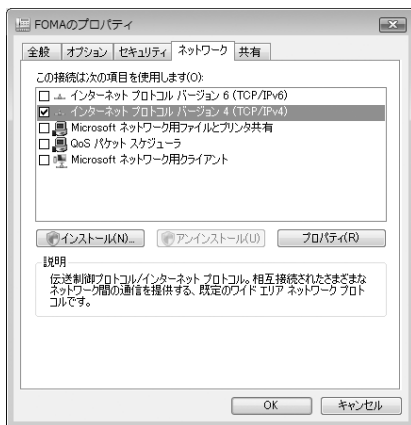
パソコンに2台以上のモデムが接続されている場合は、「接続方法」欄で「モデム－FOMA L705i」のみにチェックが付いていることを確認します（チェックが付いていない場合には、チェックします）。

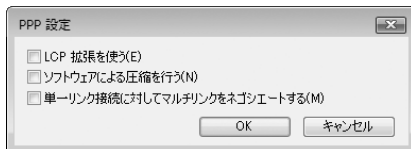
- 「ダイヤル情報を使う」にチェックが付いていないことを確認します（チェックが付いている場合は、チェックを外します）。

11 「ネットワーク」タブをクリック▶各種設定を行う

「この接続は次の項目を使用します」欄は、「インターネット プロトコル バージョン4（TCP/IPv4）」にチェックを付けます。
「QoSパケットスケジューラ」の設定は、プロバイダまたはネットワーク管理者の指定に従ってください。

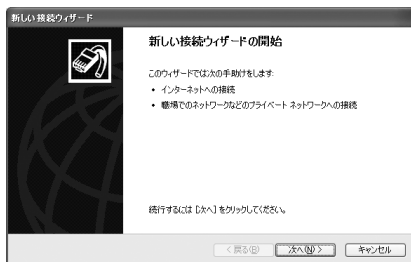
- TCP/IPを設定する場合は、［プロパティ］をクリックします。設定については、プロバイダまたはネットワーク管理者に確認してください。

次のページへ続く

12 「オプション」タブをクリック▶[PPP設定]をクリックする

13 すべての項目のチェックを外す▶[OK]をクリックする

14 「オプション」タブの画面で[OK]をクリックする

Windows XPで設定する場合

1 「スタート」▶「すべてのプログラム」▶「アクセサリ」▶「通信」▶「新しい接続ウィザード」を順にクリックする

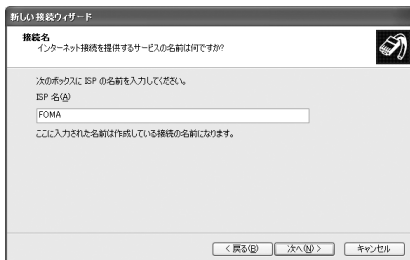
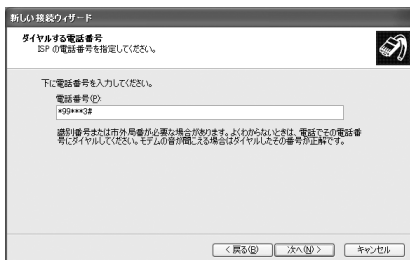
2 新しい接続ウィザード画面で[次へ]をクリックする

3 「インターネットに接続する」を選択▶[次へ]をクリックする

4 「接続を手動でセットアップする」を選択▶[次へ]をクリックする

5 「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」を選択▶[次へ]をクリックする

6 「デバイスの選択」画面が表示された場合は「モデム－FOMA L705i」を選択▶[次へ]をクリックする

デバイスの選択画面は、複数のモデムが存在するときのみ表示されます。

7 「ISP名」欄に任意の名前を入力▶[次へ]をクリックする

8 「電話番号」欄に接続先の番号を入力▶[次へ]をクリックする

9 接続の利用範囲を選択▶[次へ]をクリックする

ユーザーの選択を任意で行ってください。

- パソコンの設定によっては、この画面が表示されない場合があります。

10 「ユーザー名」「パスワード」「パスワードの確認入力」の各欄に入力▶[次へ]をクリックする

プロバイダまたはネットワーク管理者から指定された設定を入力します。

- 「mopera U」または「mopera」に接続する場合は、空欄でも接続できます。

次のページへ続く

11 [完了]をクリックする

新しく作成した接続ウィザードが表示されます。

12 「スタート」▶「すべてのプログラム」▶「アクセサリ」▶「通信」▶「ネットワーク接続」を順にクリックする

13 作成したダイヤルアップのアイコンを選択▶「この接続の設定を変更する」をクリックする

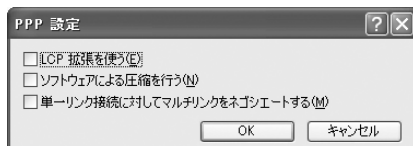
14 「全般」タブの画面で設定を確認する

- パソコンに2台以上のモデムが接続されている場合は、「接続方法」欄で「モデム－FOMA L705i」のみにチェックを付けます。
- 「ダイヤル情報を使う」のチェックを外します。

15 「ネットワーク」タブをクリック▶各種設定を行う

- 「呼び出すダイヤルアップサーバーの種類」欄は、「PPP:Windows 95/98/NT4/2000,Internet」を選択します。
- 「この接続は次の項目を使用します」欄は、「インターネットプロトコル（TCP/IP）」にチェックを付けます。「QoSパケットスケジューラ」の設定は変更できません。

16 [設定]をクリックする

17 すべての項目のチェックを外す▶[OK]をクリックする

18 「ネットワーク」タブの画面で[OK]をクリックする

Windows 2000の場合

1 「スタート」▶「プログラム」▶「アクセサリ」▶「通信」▶「ネットワークとダイヤルアップ接続」を順にクリックする

2 ネットワークとダイヤルアップ接続画面で「新しい接続の作成」アイコンをダブルクリックする

3 所在地情報画面が表示された場合は「市外局番」を入力▶[OK]をクリックする

「新しい接続の作成」をはじめて起動したときのみ表示されます。2回目以降は操作5に進んでください。

次のページへ続く

4 電話とモデムのオプション画面で[OK]をクリックする

5 ネットワークの接続ウィザード画面で[次へ]をクリックする

6 「インターネットにダイヤルアップ接続する」を選択▶[次へ]をクリックする

7 「インターネット接続を手動で設定するか、またはローカルエリアネットワーク(LAN)を使って接続します」を選択▶[次へ]をクリックする

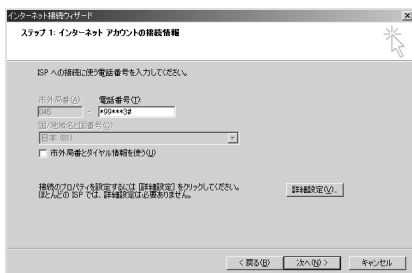
8 「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」を選択▶[次へ]をクリックする

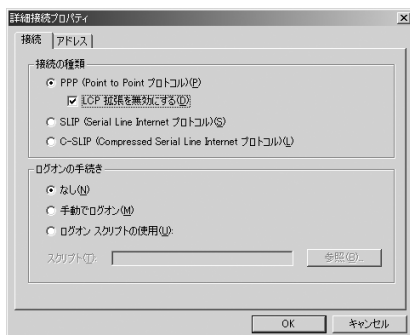
9 モデムの選択画面が表示された場合は「FOMA L705i」を選択▶[次へ]をクリックする

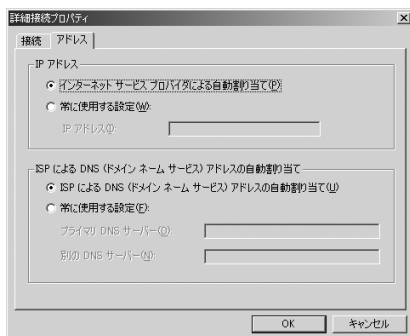
モデムの選択画面は、複数のモデムが存在するときのみ表示されます。

- 「FOMA L705i」が表示されていない場合は、「インターネットへの接続に使うモデムを選択する」欄をクリックして「FOMA L705i」を選択します。

10 「電話番号」欄に接続先の番号を入力▶[詳細設定]をクリックする

「市外局番とダイヤル情報を使う」のチェックを外します。

11 「接続」タブの画面で画面例のように設定を行う

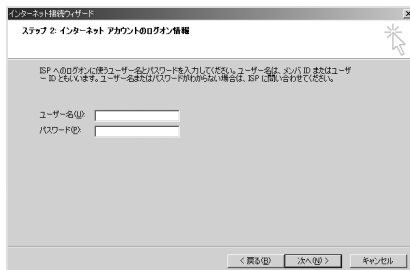
- 「mopera U」「mopera」以外に接続する場合、「接続の種類」「ログオンの手続き」の各欄にプロバイダまたはネットワーク管理者から指定された設定を入力します。

12 「アドレス」タブをクリック▶画面例のように設定▶[OK]をクリックする

- 「mopera U」「mopera」以外に接続する場合は、「IPアドレス」「ISPによるDNS(ドメインネームサービス)アドレスの自動割り当て」の各欄にプロバイダまたはネットワーク管理者から指定された設定を入力します。

13 「インターネットアカウントの接続情報」画面で[次へ]をクリックする

14 「ユーザー名」「パスワード」を入力▶[次へ] をクリックする

プロバイダまたはネットワーク管理者から指定された設定を入力します。

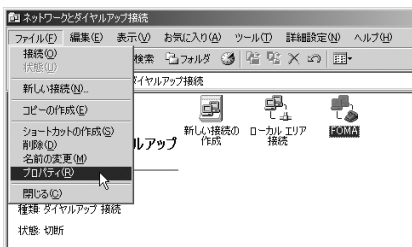
- 「mopera U」または「mopera」に接続する場合は、空欄でも接続できます。空欄の場合、ユーザー名とパスワードの空白を確認する画面が続けて表示されます。各画面で[はい]をクリックします。

次のページへ続く

15 「接続名」欄に任意の接続先名を入力▶[次へ]をクリックする

16 「いいえ」を選択▶[次へ]をクリックする

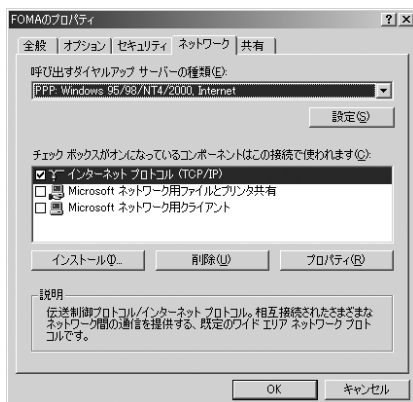
17 [完了]をクリックする

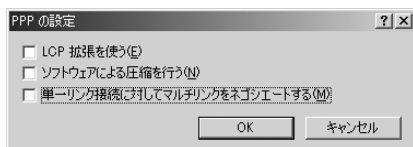
- 「今すぐインターネットに接続するにはここを選び完了をクリックしてください」が表示される場合はチェックを外します。

18 作成したダイヤルアップのアイコンを選択▶「ファイル」▶「プロパティ」を順にクリックする

19 「全般」タブの画面で設定を確認する

- パソコンに 2 台以上モデムが接続されている場合は、「接続の方法」欄で「モデム－FOMA L705i」のみにチェックを付けます。
- 「ダイヤル情報を使う」のチェックを外します。

20 「ネットワーク」タブをクリック▶各種設定を行う

- 「呼び出すダイヤルアップサーバーの種類」欄は、「PPP:Windows 95/98/NT4/2000, Internet」を選択します。
- 「チェックボックスがオンになっているコンポーネントはこの接続で使われます」欄は、「インターネットプロトコル（TCP/IP）」のみにチェックを付けます。

21 [設定]をクリックする

22 すべての項目のチェックを外す▶[OK]をクリックする

23 「ネットワーク」タブの画面で[OK]をクリックする

通信を行う

FOMA PC設定ソフトを使わない通信および通信の切断の操作について説明します。

- 通信する前に FOMA 端末がパソコンに正しく接続されていることを確認してください。→P3
- 通信するときは、設定に使用した FOMA 端末を接続してください。異なるFOMA 端末を接続した場合は、L705i通信設定ファイルの再インストールが必要になる場合があります。

例：Windows XPの場合

1 「スタート」▶「すべてのプログラム」▶「アクセサリ」▶「通信」▶「ネットワーク接続」を順にクリック▶設定した接続先のアイコンをダブルクリックする

■ Windows Vistaの場合

「(スタート)」▶「接続先」を順にクリック▶設定した接続先を選択▶［接続］をクリックします。

■ Windows 2000の場合

「スタート」▶「プログラム」▶「アクセサリ」▶「通信」▶「ネットワークとダイヤルアップ接続」を順にクリック▶設定した接続先のアイコンをダブルクリックします。

次のページへ続く

2 「ユーザー名」「パスワード」を入力▶[ダイヤル]をクリックする

接続先に接続されます。

- 「mopera U」または「mopera」に接続する場合は「ユーザー名」「パスワード」の各欄は空欄のまま、[ダイヤル]をクリックしても接続できます。その他のプロバイダやダイヤルアップ接続を選択した場合は、「ユーザー名」「パスワード」の各欄に入力し、[ダイヤル]をクリックしてください。
- ユーザー名とパスワードの保存、またはパスワードの保存にチェックを付けると、次回からは入力を省略できます。
- OSの種類によっては、ダイヤルアップを接続すると接続の完了画面が表示されます。ただし、以前に接続完了のメッセージを表示しない設定にした場合は、完了画面は表示されません。

通信を切断する

インターネットブラウザを終了しただけでは通信が切断されない場合があります。次の操作を行い、確実に切断してください。

1 パソコンのタスクトレイのダイヤルアップアイコンをクリックする

接続状態を示す画面が表示されます。

2 [切断]をクリックする

通信が切断されます。

お知らせ

- パソコンに表示される通信速度は、実際の通信速度とは異なる場合があります。

ATコマンドについて

パソコンでFOMA端末の機能の設定や状態の確認を行うためのコマンド(命令)です。通常は通信ソフトがATコマンドを発行するので、ATコマンドを意識する必要はありません。独自にATコマンドを入力してFOMA端末を制御したい場合に利用します。

ATコマンドの入力形式

ATコマンドの入力はハイパーターミナルなどの通信ソフトのターミナルモード画面で行います。

- ターミナルモードとは、パソコンで入力された文字が通信ポートに接続されている回線に送信されるモードのことを示します。

入力例

- ATコマンドは、コマンドに続くパラメータ(数字や記号)を含めて、必ず1行で入力します。通信ソフトのターミナルモード画面では、最初の文字から⏎の直前の文字までが「1行」になります。ATコマンドも含めて256文字まで入力できます。
- ATコマンドは、コマンドに続くパラメータも含めて、必ず半角英数字で入力してください。

ATコマンド一覧

FOMA L705i Modemで使用できるATコマンドです。

- 以下のコマンドは、入力可能ですが機能しない無効なコマンドです。
  - AT（ATのみ入力）- ATS0（自動着信するまでの呼び出し回数設定）- ATS6（ダイヤルするまでのポーズ時間設定）- ATS8（カンマダイヤルによるポーズ時間設定） - ATS10（自動切断までの遅延時間設定）

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
A/	直前に実行したATコマンドを再実行します。入力の最後にキャリッジリターン（CR）の入力は不要です。	－	A/ OK
AT%V	FOMA端末のバージョンを表示します。	－	AT%V L705i-XXXXXXXXX-XXXXX-XXX-XX-200X-DCM-JP X　[XXX XX 200X XX:XX:XX] OK
AT&C<n>	DTEへの回路CD信号の動作条件を選択します。	n=0：CDは常にON n=1：CDは相手モデムのキャリアに応じて変化する（初期値）	AT&C1 OK
AT&D<n>	DTEから受け取る回路ER信号がオンまたはオフへ遷移したときの動作を選択します。	n=0：ERの状態を無視する（常にONとみなします） n=2：回線を切断しERがONからOFFに変化すると、オフラインコマンド状態になる（初期値）	AT&D2 OK
AT&F<n>	すべてのレジスタを工場出荷時の設定値に戻します。通信中にこのコマンドが入力された場合は、回線切断の処理が行われます。	n=0のみ指定可能（省略可）	－
AT&W<n>	現在の設定値をFOMA端末に記憶します。	n=0のみ指定可能（省略可）	－
AT＊DANTE	FOMA端末の電波状態（アンテナマークの棒の本数）を表示します。	リザルトの書式： ＊DANTE:<m> m=0：圏外の状態 m=1：アンテナが0本または1本表示される状態 m=2：アンテナが2本表示される状態 m=3：アンテナが3本表示される状態	AT＊DANTE ＊DANTE:3 OK

次のページへ続く

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT＊DGPIR=<n>	パケット通信時に、接続先への発信者番号の通知／非通知を設定します。 本コマンドの設定は、発信時に有効です。 なお、ダイヤルアップネットワークの設定で、接続先の番号に184（非通知）／186（通知）を付けても設定できます。→P20	n=0：APNの設定のまま接続 n=1：APNに184（非通知）を付加して接続 n=2：APNに186（通知）を付加して接続 AT＊DGPIR? :現在の設定値を表示する	AT＊DGPIR=0 OK AT＊DGPIR? ＊DGPIR:0 OK
AT＊DRPW	FOMA端末の受信電力指標値を表示します（最小値～最大値：0～75）。	－	AT＊DRPW ＊DRPW:25 OK
AT+CACM="<passwd>"	FOMAカードに記録される累積課金の値をリセットします。	passwd:PIN2コード 入力したPIN2コードが正しかった場合は、累積課金の値をリセットします。	(PIN2コードとして「1234」を入力) AT+CACM="1234" OK
AT+CBC	FOMA端末の電池残量を表示します。	リザルトの書式： ＋CBC:<bcs>,<bcl> bcs=0：電池パックより電源が供給されている状態 bcs=1：電池パックより電源が供給されていない状態 bcs=2：FOMA端末に電池パックが接続されていない状態 bcs=3：電源供給エラーによるFOMA端末から発信不可の状態 bcl　：電池残量を0～100の数値で表示する	AT+CBC +CBC:0,70 OK
AT+CGDCONT	パケット通信の接続先（APN）を設定します。	P34をご参照ください。	P34をご参照ください。
AT+CGEQMIN	PPPパケット通信の接続確立時にネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許容するかどうか判定する基準値を登録します。	P34をご参照ください。	P34をご参照ください。
AT+CGEQREQ	PPPパケット通信の発信時にネットワーク側へ要求するQoS（サービス品質）を設定します。	P34をご参照ください。	P35をご参照ください。
AT+CGMR	FOMA端末のバージョンを表示します。	－	AT+CGMR XXXXXXXXXXXXXXXXX OK

次のページへ続く

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT+CGREG=<n>	ネットワークへの登録状態を通知するかどうかを設定します。ネットワークから応答される通知情報に応じて圏内または圏外を表示します。	n=0：通知なし（初期値） n=1：通知あり 圏内／圏外が切り替わると通知する AT+CGREG? ：現在の状態を表示する リザルトの書式： +CGREG:<n>,<stat> n：通知のあり／なしの現在の設定値を表示する stat=0:パケット通信圏外 stat=1:パケット通信圏内 stat=4:不明 stat=5:パケット通信圏内（ローミング時）	AT+CGREG=1 OK (通知ありに設定した場合) AT+CGREG? +CGREG: 1,0 OK (パケット通信圏外の場合)
AT+CGSN	FOMA端末の製造番号を表示します。	−	AT+CGSN XXXXXXXXXXXXXXX OK
AT+CMEE=<n>	FOMA端末のエラーレポートの有無を設定します。	n=0：通常のERROR リザルトを用いる（初期値） n=1：+CME ERROR:<err>リザルトコードを使用し、<err>は数値を用いる n=2：+CME ERROR:<err>リザルトコードを使用し、<err>は文字を用いる AT+CMEE? ：現在の設定値を表示する 右記は誤ったPINロック解除コード、およびPIN1/PIN2コードを入力した場合の表示例です。	AT+CMEE=0 OK AT+CPIN="12345678","1234" ERROR AT+CMEE=1 OK AT+CPIN="12345678","1234" +CME ERROR : 16 AT+CMEE=2 OK AT+CPIN="12345678","1234" +CME ERROR : incorrect password
AT+CNUM	FOMA端末の自局電話番号を表示します。	リザルトの書式： +CNUM:,<number>,<type> number：自局電話番号 type=129 ：電話番号に「+」（国際アクセスコード）を含まない type=145 ：電話番号に「+」（国際アクセスコード）を含む	AT+CNUM +CNUM:,"090XXXXXXXX",129 OK

次のページへ続く

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT+CPAS	FOMA端末への制御信号が使用できる状態かどうかを表示します。	リザルトの書式： ＋CPAS:<pas> pas 0:FOMA端末への制御信号の送受信が可能	AT+CPAS ＋CPAS:0
AT+CPIN="<pin>"[,"<newpin>"]	FOMA端末にPINコードを入力します。	PIN1/PIN2/PINロック解除コードを入力します。 AT+CPIN? ：PIN1またはPIN2コードの状態を示します。リザルトコードについてはP35を参照してください。 ※AT+CPINによってPIN認証は可能ですが、FOMA端末には表示されません。ご注意ください。	AT+CPIN? +CPIN：SIM PIN OK （PIN1またはPIN2コードとして「1234」を入力） AT+CPIN="1234" OK （PINロック解除コードとして「12345678」、新しいPIN1またはPIN2コードとして「1234」を入力） AT+CPIN="12345678","1234" OK
AT+CPUC="<currency>","<ppu>"[,"<Passwd>"]	FOMAカードの通貨テーブルを書き換えます。	passwd：PIN2コード ※入力したPIN2コードが誤っていた場合は、「ERROR」が表示されます。 AT+CPUC? ：現在の設定値を表示する	（PIN2コードとして「1234」を入力） AT+CPUC="YEN","0.2","1234" OK AT+CPUC? +CPUC:"YEN","0.2" OK AT+CPUC =? OK
AT+CREG=<n>	圏内／圏外情報の表示に関するリザルト表示の有無を設定します（パソコンのOSによっては設定できない場合があります）。	n=0：通知なし（初期値） n=1：通知あり 圏内／圏外が切り替わると通知する AT+CREG? ：現在の状態を表示する リザルトの書式： +CREG:<n>,<stat> n：通知のあり／なしの現在の設定値を表示する stat=0：音声圏外 stat=1：音声圏内 stat=4：不明 stat=5：音声圏内（ローミング時）	AT+CREG=1 OK （通知ありに設定） AT+CREG? +CREG:1,0 OK （圏外の場合） +CREG:1 （圏外から圏内に移動した場合）

次のページへ続く

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT+FCLASS=<n>	FOMA端末がサポートする通信種別を設定します。	n=0 ：データのみサポート（初期値） AT+FCLASS? ：現在の設定値を表示する	AT+FCLASS=0 OK
AT+GCAP	FOMA端末のATコマンドのサポート能力を表示します。	−	AT+GCAP +GCAP:+CGSM, +FCLASS,+W OK
AT+GMI	製造元名を表示します。	−	AT+GMI LG Electronics Inc OK
AT+GMM	FOMA端末の製品名を表示します。	−	AT+GMM FOMA L705i OK
AT+GMR	FOMA端末のバージョンを表示します。	−	AT+GMR L705i- MSM234055C- VXXX-XXX-XX- XXXX-DCM-JP X [XXX XX 200X XX:XX:XX] OK
AT+IFC=<n>,<m>	フロー制御方式を設定します。	n:DCE by DTE m:DTE by DCE <n>,<m>のパラメータ 0:フロー制御なし 1:XON/XOFFフロー制御 2:RS/CS（RTS/CTS）フロー制御（初期値） AT+IFC? ：現在の設定値を表示する	AT+IFC=2,2 OK AT+IFC? +IFC:2,2
AT+WS46=<n>	FOMA端末が使用する無線ネットワークを設定します。	n=12:GSM n=22:3G（W-CDMA） n=25:自動切り替え（初期値） AT+WS46? ：現在の設定値を表示する	AT+WS46=25 OK AT+WS46? 25 OK
AT¥S	現在設定されている各コマンド、Sレジスタの内容を表示します。	−	AT¥S E1 Q0 V1 X4 &C1 &D2 S000=000 S003=013 S004=010 S005=008 S006=005 S007=060 S008=003 S010=001 OK

次のページへ続く

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
ATD	発信処理を行います。	入力の書式： ATD＊99＊＊＊<cid># cid:+CGDCONTコマンドで設定したAPNの登録番号（cid）を1～11で入力します。 • cidを省略して「ATD*99***#」と入力すると、自動的にcid1に登録されているAPNに発信されます。	ATD*99***3# CONNECT
ATE<n>	コマンドモードのときにDTEに対するエコーバックの有無を指定します。	n=0：エコーバックなし n=1：エコーバックあり（初期値）	ATE1 OK
ATH	パケット通信時に回線を切断します。	−	（パケット通信中） ATH NO CARRIER
ATI<n>	認識コードを表示します。	n=0：「NTT DoCoMo」を表示する n=1：製品名を表示する n=2：FOMA端末のバージョンを表示する n=3：ACMP信号の各要素を表示する n=4：FOMA端末の通信機能の詳細を表示する	ATI0 NTT DoCoMo OK ATI1 FOMA L705i OK
ATQ<n>	DTEへのリザルトコードを表示するかどうか設定します。	n=0：表示する（初期値） n=1：表示しない	ATQ0 OK ATQ1 （このとき、「OK」は表示されない）
ATS3=<n>	キャリッジリターン（CR）キャラクタを設定します。	n=13：初期値（13のみ設定できます） ATS3?：現在の設定値を表示する	ATS3=13 OK ATS3? 013 OK
ATS4=<n>	ラインフィード（LF）キャラクタを設定します。	n=10：初期値（10のみ設定できます） ATS4?：現在の設定値を表示する	ATS4=10 OK ATS4? 010 OK
ATS5=<n>	バックスペース（BS）キャラクタを設定します。	n=8：初期値（8 のみ設定できます） ATS5?：現在の設定値を表示する	ATS5=8 OK ATS5? 008 OK
ATV<n>	すべてのリザルトコードの表示を数字または英文字に設定します。	n=0：リザルトコードを数値で表示する n=1：リザルトコードを文字で表示する（初期値）	ATV1 OK

次のページへ続く

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
ATX<n>	接続時のCONNECT表示に速度表示の有無を設定します。また、ビジートーン、ダイヤルトーンを検出します。	n=0：ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出なし、速度表示なし n=1：ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出なし、速度表示あり n=2：ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出あり、速度表示あり n=3：ビジートーン検出あり、ダイヤルトーン検出なし、速度表示あり n=4：ビジートーン検出あり、ダイヤルトーン検出あり、速度表示あり（初期値）	ATX1 OK
ATZ<n>	ATコマンドの設定を、不揮発メモリの内容にリセットします。通信中にこのコマンドが入力された場合は、設定はリセットされません。	－	ATZ OK

ATコマンドの補足説明

■ コマンド名：+CGDCONT=［パラメータ］

- 概要
  パケット発信時の接続先（APN）の設定を行います。
  本コマンドは設定コマンドですが、&Fによるリセットは行われません。
- 書式
  +CGDCONT=［<cid>［,"<PDP type>"［,"<APN>"］］］
- パラメータ説明
  <cid>※1：1～11
  <PDP type>※2：PPPまたはIP
  <APN>※3：任意

※1：<cid>は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。本FOMA 端末では1～11が登録できます。なお、<cid>=1にはmopera.ne.jp、<cid>=3にはmopera.net が初期値として登録されています。
※2：<PDP type>は、パケット通信の接続方式です。接続先が対応する接続方式をPPPまたはIPのどちらかから選択して入力します。
※3：<APN>は、接続先を示す接続先ごとの任意の文字列です。

- コマンド実行例
  abc というAPN 名を登録する場合のコマンド（cid2に登録する場合）
  AT+CGDCONT=2,"IP","abc"
  OK
- パラメータを省略した場合の動作
  AT+CGEQREQ=
  ：すべての<cid>を初期値に戻します。
  AT+CGDCONT=<cid>
  ：指定された<cid>を初期値に戻します。
  AT+CGDCONT=?
  ：設定可能な値のリスト値を表示します。
  AT+CGDCONT?
  ：現在の設定を表示します。

■ コマンド名：+CGEQMIN=［パラメータ］

- 概要
  パケット通信確立時にネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準値を登録します。
  本コマンドは設定コマンドですが、&Fによるリセットは行われません。
- 書式
  +CGEQMIN=［<cid>［,,<Maximum bitrate UL>［,<Maximum bitrate DL>］］］
- パラメータ説明
  <cid>※1：1～11
  <Maximum bitrate UL>※2：なし（初期値）または 64
  <Maximum bitrate DL>※2：なし（初期値）または 384

※1：<cid> は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。本FOMA端末では1～11が登録できます。なお、<cid>=1にはmopera.ne.jp、<cid>=3にはmopera.netが初期値として登録されています。
※2：<Maximum bitrate UL>および<Maximum bitrate DL>は、FOMA端末と基地局間の上りおよび下り最低通信速度［kbps］の設定です。なし（初期値）の場合はすべての速度を許容しますが、384に設定した場合はこれらの値以外での速度の接続は許容しないため、パケット通信が接続できない場合がありますのでご注意ください。

- コマンド実行例
  （1）上り／下りすべての速度を許容する場合のコマンド（cidが2の場合）
  AT+CGEQMIN=2
  OK
  （2）上り64kbps／下り384kbpsの速度のみ許容する場合のコマンド（cidが2の場合）
  AT+CGEQMIN=2,,64,384
  OK
  （3）上り64kbps／下りはすべての速度を許容する場合のコマンド（cidが2の場合）
  AT+CGEQMIN=2,,64
  OK
  （4）上りすべての速度／下り384kbpsの速度のみ許容する場合のコマンド（cidが4の場合）
  AT+CGEQMIN=4,,,384
  OK
- パラメータを省略した場合の動作
  AT+CGEQMIN=
  ：すべての<cid>を初期値に戻します。
  AT+CGEQMIN=<cid>
  ：指定された<cid>を初期値に戻します。
  AT+CGEQMIN=?
  ：設定可能な値のリスト値を表示します。
  AT+CGEQMIN?
  ：現在の設定を表示します。

■ コマンド名：+CGEQREQ=［パラメータ］

- 概要
  パケット通信の発信時にネットワークへ要求するQoS（サービス品質）を設定します。
  次のコマンド実行例に記載されている1種類のみ設定でき、初期値としても設定されています。
  本コマンドは設定コマンドですが、&Fによるリセットは行われません。
- 書式
  +CGEQREQ=［<cid>］
- パラメータ説明
  <cid>※：1～11

※：<cid> は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。本FOMA端末では1～11が登録できます。なお、<cid>=1にはmopera.ne.jp、<cid>=3にはmopera.netが初期値として登録されています。

次のページへ続く

- コマンド実行例
  次の1種類のみ設定できます（各cidに初期値として設定されています）。
  上り64kbps／下り384kbpsの速度で接続を要求する場合のコマンド（cidが2の場合）
  AT+CGEQREQ=2
  OK
- パラメータを省略した場合の動作
  AT+CGEQREQ=
  : すべての<cid>を初期値に戻します。
  AT+CGEQREQ=<cid>
  : 指定された<cid>を初期値に設定します。

エラーレポート一覧

数字表示	文字表示	理　由
15	SIM wrong	FOMAカード以外のSIM（NTTドコモ以外のICカード）が挿入されています。
16	incorrect password	パスワードが誤っています。
100	unknown	不明なエラーです。

リザルトコード

■ リザルトコード一覧

数字表示	文字表示	意　味
0	OK	正常に実行しました。
1	CONNECT	相手と接続しました。
2	RING	着信しています。
3	NO CARRER	回線が切断されました。
4	ERROR	コマンドを受け付けることができません。
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーンが検出できません。
7	BUSY	話中音検出中です。
8	NO ANSWER	接続完了（タイムアウト）
100	RESTRICTION	ネットワークが規制中です。

お知らせ

- ATVｎコマンド（P32）がn=1に設定されている場合は文字表示（初期値）、n=0に設定されている場合は数字表示でリザルトコードが表示されます。

■ AT+CPIN?のリザルトコード

FOMA端末の状態	リザルトコード
入力待ち	+CPIN:SIM PIN（PIN1コードの場合） +CPIN:SIM PIN2（PIN2コードの場合）
PINロック解除コード入力待ち	+CPIN:SIM PUK（PIN1コードの場合） +CPIN:SIM PUK2（PIN2コードの場合）
PINコード認証済み	+CPIN:READY
不適切なコマンドが入力された状態	+CME ERROR:Operation is not allowed
コマンド誤入力	ERROR